

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500011		
法人名	有限会社ささゆり		
事業所名(ユニット名)	グループホーム有田ささゆり (西ユニット)		
所在地	和歌山県有田市宮原町新町225		
自己評価作成日	令和5年10月8日	評価結果市町村受理日	令和6年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和5年11月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームはミカン畑や住宅の中にあり、緑も豊かで静かな環境にあります。ガーデニングや家庭菜園をする場合もあり、温かく家庭的な雰囲気大切にしています。お互いを思いやるやさしい心で利用者の立場に立ち、型にはめられない支援を行い、その人らしい個性豊かな生活が送れるよう、そして最後はここに住んでよかったと心より思っていたいただけるような施設を目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の名称には、利用者一人ひとりがここ「ささゆり」で個性の花を咲かせて欲しいとの願いが込められており、すべての職員は開花に最適な環境づくりに徹して日々の支援に取り組んでいる。利用者の生活を支える健康状態の管理については、事業所の提携医との連携が密で、24時間の対応が可能な状況にあることから、利用者だけでなく家族等も不安なく過ごすことができる。感染症拡大防止の観点から、地域との交流は縮小を余儀なくされているが、最小限度の交流は維持している。今後は事態の推移を見守りながら、以前のような活発な交流に向けての準備を進める予定である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500011		
法人名	有限会社ささゆり		
事業所名(ユニット名)	グループホーム有田ささゆり (東ユニット)		
所在地	和歌山県有田市宮原町新町225		
自己評価作成日	令和5年10月8日	評価結果市町村受理日	令和6年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和5年11月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームはミカン畑や住宅の中にあり、緑も豊かで静かな環境にあります。ガーデニングや家庭菜園をする場合もあり、温かく家庭的な雰囲気大切にしています。お互いを思いやるやさしい心で利用者の立場に立ち、型にはめられない支援を行い、その人らしい個性豊かな生活が送れるよう、そして最後はここに住んでよかったと心より思っていたいただけるような施設を目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の名称には、利用者一人ひとりがここ「ささゆり」で個性の花を咲かせて欲しいとの願いが込められており、すべての職員は開花に最適な環境づくりに徹して日々の支援に取り組んでいる。利用者の生活を支える健康状態の管理については、事業所の提携医との連携が密で、24時間の対応が可能な状況にあることから、利用者だけでなく家族等も不安なく過ごすことができる。感染症拡大防止の観点から、地域との交流は縮小を余儀なくされているが、最小限度の交流は維持している。今後は事態の推移を見守りながら、以前のような活発な交流に向けての準備を進める予定である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ささゆり」の花に寄せた、型にはめられない個性的な介護を目指した理念をつくり、定例会議等の場で話し合い、理念に基づいた介護が実践できるよう努めている。	事業所開設時に定めた理念は現在もすべての職員が納得できるものであり、浸透度も高い。理念は事業所内に掲げると共に、業務日誌にも表記することで共有を図り、職員各自が理念の中で何に力点を置くか決めながら日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動(清掃活動等)だけでなく、地域の祭りや集まりにも積極的に参加している。また、地域の方々にも、ホームの行事等に参加していただけるよう取り組んでいる。	天候の異変時等には必ず声がかかり、日常的に野菜の差し入れを受ける等近隣の方々との交流は頗る活発である。事業所前が通学路であることから、児童・生徒との挨拶は欠かすことがない。自治会員でもあり、以前のように行事等に積極的に参加できるよう、感染症流行の終息を待つばかりである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	無料相談室を設けたり、家族会や運営推進会議にて、「認知症・認知症ケア」などについて話し合い、地域の方々にも認知症高齢者の理解が深められるよう努めている。現在はコロナ、インフルエンザ感染防止の為開催していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や入居者、自治会長、市や包括の職員、近隣住民等にも出席していただき、活動内容や評価の取り組み等について話し合い、意見をサービスの向上に活かしている。	感染症防止対策を十分に行っての開催であり、利用者・家族等・近隣住民の出席がある。話し合いの中で出された災害に対する取り組みにつき、計画書の作成につながった経緯がある。自己評価及び外部評価結果は、利用者・家族等及び職員の他関係者に開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員や市の職員にこまめに連絡をとり、ささゆりの日頃の様子や取り組みについて伝えている。5月以降認定調査も開始され調査時には談話も含め様子を伝えている。	事業所の法律上の位置付けから地域包括支援センターとの連携は密であり、双方向の協力関係が築かれている。又、生活保護の利用者も入居しているため、ケースワーカーの訪問時が事業所の活動内容を積極的に伝える良い機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が新任・現任研修等にて「身体拘束廃止に向けての取り組み」について理解を深め、取り組んでいる。玄関の施錠も、必要最低限にし、出来る限り鍵をかけないケアを実践している。人権福祉連絡会へ参加し身体拘束をしないケアへの意識を高めている。	職員各自の自己点検及び職員相互の確認を怠ることなく、拘束となる具体的な行為の正しい理解を実践を通して深めており、中でも言葉による拘束については特に注意を払っている。玄関の施錠は夜間・早朝のみであり、自宅生活と変わることはない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修、現任研修にて、高齢者虐待防止法などについて学び、全職員が虐待防止に努めている。また人権福祉連絡会への参加で虐待防止への意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者は居ないが管理者を含め、職員は新人研修、現任研修などで制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、家族はもちろん本人にも出来るだけ見学に来てもらい、十分な説明を行い、双方が納得して入居していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には日常の会話やアンケートを通して意見や要望を引き出せるように努めている。また、面会時や家族会・運営推進会議にて意見表出の機会を設け、その意見を運営に反映させている。今年は感染症拡大防止の為面会を制限して行っている。	玄関には相談・苦情の受付箱を置いているが利用はない。話しやすい雰囲気づくりが功を奏し職員が直接聞き取っている。家族等の意見・要望を踏まえ、映像による利用者の活動の報告を検討中である。また、家族等が意見・要望を事業所及び外部の機関に表せることを契約時に説明し、書面を掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開催し、よりよきささゆりにするために話し合っている。また個別面談やアンケートを実施し、職員の意見や提案を聞き、反映させている。	職員会議・個別面談・アンケート等に限定されず、職員は随時意見や提案を活発に出している。リフト浴の導入、浴槽への挟み込み、手すりの取り付けが職員の提案により実現し、利用者の安全の確保及び職員の負担軽減が実現した。また、食洗機・魚焼きグリルの購入が調理の効率化につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々について把握し、個々に応じて仕事内容や労働条件等の整備を行い、自信や意欲を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の計画を立て、段階に応じて様々な研修を受講できるようにしている。また、研修などの案内も掲示し、全職員に行き渡るようにし、希望する研修を受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や研修等に参加し、交流する機会を持ったり、姉妹施設と相互訪問を行ったりしている。現在は感染症拡大防止の為相互訪問は行っていない。研修に関しては都度上司と相談し是非を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方は納得されずに来られる方も多いので、まず本人の話に傾聴することに努めている。また、情報提供書、センター方式等を用いて、全職員がニーズや不安等を理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安を取り除けるよう、入居前に訪問・面談や電話連絡を行い、家族の思いを受け止めている。入居後も信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくりと話を聞き、本当に必要としているサービスについて検討し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に笑いあったり、楽しんだり等、時間を共にし、家事など一緒にすることで、共に暮らし、支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「共に支えている」という意識を念頭に置き、なるべく頻繁に来訪していただいて、多くの時間を一緒に過ごしていただいている。現在は感染症拡大防止の為面会を制限している為家族支援が少ないが、コロナ禍で面会や会話ができない時と比べ家族からは良い反応を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や職員が同伴して近隣や馴染みの美容室に行ったり、なじみの場所を訪れたり、よく通ったスーパー、店へ買い物に出掛けたり、友人の来訪など、これまでの関係が継続できるよう支援している。現在は感染症拡大防止の為外出に制限を設けており今までと違う関係継続支援を行っています。	感染症の拡大防止のため時間の制限はあるが、家族等との面会は実施されており、ペットを同伴したり共に散歩に出かけることもある。感染症防止対策をとった美容師の訪問・事業所だよりや行事の写真の送付等を行いながら馴染みの人や場との関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や他の利用者との関係を見極めながら、お互い支えあえるような良い関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて相談や支援を行い、関係を断ち切らないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身でお話しできる方にはもちろんのこと、出来ない方にも少しずつ聞き取ったり、本人の仕草や行動を観察したり、ご家族に聞かせていただいたり、本人の思いや意向を把握できるように努めている。	センター方式を活用し、関係者から提供された情報をもとに利用者の思いや意向の把握に努めているが、利用者本人からの聞き取りや行動の観察からの把握には、本人の日々の気分の変動による不十分さが伴う為、職員の気付き等の情報が共有できるよう必ず記録で残すこととしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、入居時に本人や家族から聞き取ったり、これまで利用されていた事業所より情報を提供していただくなどで、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、定期的なモニタリング、ケア会議の開催などにより、職員全員が把握できるようにしている。また、日々の様子や気付きなどを申し送りに記入し、職員間で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のニーズ、実際に必要とされるサービスの照らし合わせを行い、家族や医療関係者等とも話し合い、一人ひとり現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族等からの聞き取り・職員間の検討を経て課題を抽出し、主治医の意見をも反映した介護計画の作成である。モニタリングを通して状況の変化に対応しながら、必要時は変更を加える等で現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を職員全員で共有できるよう、具体的に記入し、申し送る等して、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な通院や買い物、外出など本人や家族の希望に出来るだけ早急に応じるよう心がけている。現在は感染症拡大防止の為利用者本人の外出は娯楽などに限り控えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生の職業体験学習の受け入れや保育園児の慰問、消防署の職員による防災訓練などを行っている。また、地域のお寺や神社にもよく外出している。現在は感染症拡大防止の為慰問等も制限しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族等の希望を聞き、納得している医療機関を受診できるようにし、同意を得ている。協力医師も近隣の方をお願いしており、日頃から連携し、体制を整えている。	事業所の提携医の往診は月に1～2回であり、通院を要する場合は、家族等又は職員が同行する。眼科・歯科については訪問診療である。情報の提供は口頭又は書面に依っている。提携医による緊急時の対応も可能であり、利用者は適切な医療を受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時、地域の病院の看護師に利用者の様子や症状等について相談している。また、一人ひとりの状態に応じ、必要時には訪問看護など適切な看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、家族や医療機関と情報交換や相談を行い、安心して治療したり、早期に退院できるよう話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームで出来ること・出来ないことについて説明を行い、本人・家族の意思確認を行っている。主治医とも話し合いを重ね、入院を要する場合を除き、重度化や看取りについては行っていく方針である。	重度化や、終末期に向けた指針を備えているが看取りに至った事例はない。段階毎に主治医と利用者・家族等が話し合いながら対応している。医療の必要性が高まると、家族等が入院を希望することがほとんどである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応についての研修を行っている。また定期的に消防署の救命講習なども受講し、実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、入居者と一緒に避難訓練を行い、避難場所を確認している。その際職員は、消火・通報の訓練も実施し、身につけている。運営推進会議でも、地域の方と災害対策について話し合っており、地区での防災訓練にも参加している。2階にも一時避難できるよう準備を整えている。毎年9月には地区の合同避難訓練に参加している。	昼間及び夜間を想定した訓練の実施であり、利用者と職員と一緒に避難している。地区の訓練にも積極的に参加していることから、近隣の方々の配慮も行き届いている。必要物品を備蓄し、自家発電機の備えもある。ただ、地域の避難場所への移動には時間を要し危険が伴う為、垂直避難が可能で近い場所の選定を急いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を傷つけるような声かけや対応はしていないか日常的に職員同士で確認をしながら、利用者の人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。	呼称には、旧姓を含め姓を用いることが原則である。トイレへの誘導時の声かけには慎重を期しており、職員には、利用者一人ひとりのその日の気分や場面に応じた声かけをする力量が備わっている。 利用者の個人情報口外せず、ファイル等は鍵のかかる場所に保管する等、責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせて説明や聞き方を工夫し、思いや希望をくみ取ったり、自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とならないように入居者との関わりやユニット全体の雰囲気やペースを大切に、その中で一人ひとりのペースや個々の希望にそって過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒にお化粧品や衣類を買いに出掛けたり、職員と一緒に衣服をコーディネートしたり等、おしゃれを楽しむ支援をしている。現在は感染症拡大防止の為職員が購入したり、ご家族が買ってきてくださる方法をとっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と献立を決めたり、一緒に準備や片付けを行うなどし、楽しむことが出来るよう支援している。	利用者一人ひとりの持てる力を見極め、部分的であっても食事づくり・後片付け・おやつづくり等に参加してもらおうとしている。嚥下機能の低下した利用者につき、一律ではなく、日毎の変化に合わせて調理の形態を変えるという細やかな対応である。利用者と職員は同じ物を食べ、出来具合を評価しながらの食事風景であり、自家菜園からの収穫物が食卓に並んだ際の盛り上がりは格別である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事摂取量・バイタルサイン・排泄の様子等が分かるチェック表を使い、健康管理の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて毎食後うがいや歯磨き等の口腔ケアの支援を行っている。また、寝る前には、義歯のポリドント洗浄を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートで一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた声かけや誘導を行っている。おむつやパットは一人ひとりの状態に合わせて使用し、トイレでの排泄を促している。	おむつやパットを使用する時には、根拠を明確にし、固定化を避ける為、一人ひとりについて常に見直しをしている。入居後や病院退院後に改善した事例が多く見られることに職員は手ごたえを感じ、今後の取り組みの継続・強化への力を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫(野菜を多く取り入れ、水分を多く摂る等)や運動(散歩やラジオ体操)の働きかけを行い、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回の入浴となっているが、本人の希望に合わせて、時間帯や長さ、回数等できる限り個人の希望にそえるように努めている。リフト浴を導入し下肢に不安のある方でも入浴を楽しめる設備を整えている。	入浴は話しがはずみ気分が解れる絶好の機会であり、入浴剤の使用や季節湯の実施は入浴の楽しさを倍加させている。入浴を拒み勝ちな利用者については、工夫をしながらの声かけや対応で実現につなげ、入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠していただけるようにレクリエーションや体操を取り入れ、日中活動の充実に努めている。また、一人ひとりの状況に合わせて休憩したり落ち着ける場所へ誘導する等支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱には服薬シートを貼り、薬の作用や用量を理解して、医師の指示通りに服薬できるように支援している。また、個別の薬ファイルや服薬チェック表の活用、症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや掃除、畑や花の世話、調理、一人ひとりの力に合わせた役割や、場面作りを支援している。現在は感染症拡大防止の為屋外での役割は制限し屋内での役割作りを努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム内での散歩や玄関先での草花の手入れなど、日常的に行っている。また、買い物や行楽なども随時企画し、実施している。現在は感染症拡大防止の為外出支援は制限し屋内での催しを中心に支援しています。	外出への制限がある中でも、人ごみを避けてドライブに出かけることはある。以前のように気兼ねなく花見(桜・梅・紫陽花)・鯉のぼり見学・紅葉狩り・初詣等に出かけられる日の到来を心待ちにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望や力に応じ、金銭管理や買い物の際の支払い等を本人が行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮し、電話をかけたり、手紙のやりとりが出来るよう支援している。現在は感染症拡大防止の為手紙や電話のやり取りを多く取り入れご家族との関係性を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、一般家庭で使用しているものを使用している。ホーム内にも四季折々の花を飾ったりして、季節感が感じられるようにしている。また、こまめに外の空気を取り入れて快適に過ごせるようにしている。	利用者は一日の内でリビングで過ごす時間が長く、手づくりの日めくりでその日確かめている。思い思いに新聞や雑誌を読んだり、テレビを見たり、利用者同士で談笑したりと寛いで過ごしており、居心地の良さを物語っている。寝たきりの利用者も車イス利用でできるだけリビングで過ごしてもらおうようにしている。畳敷きコーナーで洗濯物をたたむ利用者の姿に、暮らしの場を実感することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が独りになったり、気の合った者同士で過ごせるよう個室やソファがある。また、ユニット間の移動も自由に行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談の上、なじみの家具や置物を持ち込んでいただき、配置にも配慮している。位牌を持ち込まれている方もあり、その人らしく過ごすことが出来るよう支援している。	居室は内側からの施錠が可能であり、本人が落ち着いて自分のペースで過ごすことができる。職員が居室を訪れる際には、ノックをし声をかける等、プライバシーの確保に十分な配慮がなされている。利用者・家族等から「自宅と同様に畳の部屋にしたい。」との要望があれば応じる予定であり、利用者が居心地良く過ごせるよう考慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力に合わせ、トイレや部屋の場所が分かるように目印をつけたり、家具の配置に工夫したり、手すりを設置するなどの工夫をしている。		